第三十回宮柊二記念館全国短歌大会

選者　久々湊　盈子　先生

　　鈴木　竹志　先生

入選作品集

第三十回宮柊二記念館全国短歌大会ご参加へのお礼

大会会長　魚沼市長　内田　幹夫

第三十回宮柊二記念館全国短歌大会に、遠くはブラジル、オーストラリア、台湾から、そして日本全国各地の皆様から、多くの歌を寄せていただいたことに心からお礼申し上げます。

今大会一般部門においては千首を超える作品が寄せられました。ジュニア部門とあわせ、全体では今年も一万首を超える応募をいただき、「全国短歌大会」の名にふさわしい大会としていただくことができました。

このようなたくさんの応募歌について心を込めて選歌をしてくださった久々湊盈子先生、鈴木竹志先生に心からお礼を申し上げます。

久々湊盈子先生は、十七歳で「心の花」に入会。その後、加藤克巳氏の「個性」に入会され、終刊まで運営委員を務められました。現在は歌誌「合歓」の主宰としてご活躍中です。現代歌人協会会員であり、千葉県歌人クラブ会長をお務めです。歌集に『熱き神話を』『黒鍵』『家族』『射干』『あらばしり』『紅雨』『風羅集』『鬼龍子』『世界黄昏』『麻裳よし』『非在の星』があり、ほかに鑑賞『安永蕗子の歌』百首、インタビュー集『歌の架橋』Ⅰ・Ⅱ、共著『今こそ読みたい近代短歌』などもございます。

鈴木竹志先生は、一九七三年にコスモス短歌会に入会。現在は「コスモス」の編集委員および選者、コスモス短歌会愛知支部代表をお務めです。また、現代歌人協会会員、日本文藝家協会会員、さらに中部日本歌人会の顧問をされており、中京大学に非常勤講師としてお勤めです。歌集に『流覧』『游渉』『聴雨』、評論集に『同時代歌人論』『歌を読む悦び』『孤独なる歌人たち』『高野公彦の歌世界』があります。

このような素晴らしい先生お二人から選歌いただけたことを皆様とともに感謝したいと思います。

さて、暑かった夏が終わり、豊かな実りの季節となりました。美味しい食べ物ばかりでなく、秋の魚沼市には鮮やかな紅葉などの美しい自然が豊かに広がり、体も心も癒される魅力がたくさんあります。当市は今年市制施行二十周年を迎えます。これからもより一層、全国に魅力をお届けしてまいりたいと考えております。

結びに、皆様のご支援とご協力により、三十回目の大会を成功裏に終えることができましたことを改めてお礼申し上げます。そして、引き続き多くの人々が短歌に親しむとともに、楽しみながらも一層研鑽されますことを祈念し、お礼のことばといたします。

選者のことば

久々湊　盈子

わたしが短歌をはじめて作ったのは高校生の頃。もともとお正月になると家族揃って「百人一首」をするのが恒例であったから、五・七・五・七・七という定型に馴染んでいたせいもあって、たまたま入った文芸部で短歌を知ってからは夢中でどんどん作るようになった。十七歳の時には生意気にも佐佐木信綱先生の主宰する「心の花」という短歌結社に入会。ちょうどその頃は短歌の世界では伝統的なアララギの写実にあきたらず、もっと自由にさまざまなことを作品にしたいという前衛短歌運動が盛んなときだった。寺山修司や佐佐木幸綱、塚本邦雄、岡井隆、春日井建といった歌人の名前を聞かれたことがあるかもしれない。日本の各地でシンポジウムが開かれ、熱心にこれからの短歌はどうあるべきか、といった議論が戦わされていった。高校時代に熱心に一千首を越える短歌を作ったことが結果的にわたしの短歌の基盤になっていると思っている。石川啄木でも与謝野晶子でも若山牧水でも、もちろん、現代に活躍している歌人の歌でもいいが、好きになった歌人の作品をどんどん読んでみることをお勧めしたい。図書館に行けばいろんな歌人の歌集や全集が揃っている。宮柊二の短歌は初心の間は、やや手ごわいだろうが、いつかは挑戦して、ぜひ読んでいただきたいものと思っている。

選者のことば

鈴木竹志

長くコスモス短歌会に所属していますが、この度宮柊二記念館短歌大会の選者の任に就くことになり、大変喜ばしく思っています。と同時に任の重さによる緊張感も並大抵ではありませんでしたが、多くの方々から寄せられた短歌作品に励まされて、何とか選を終えることができました。心より感謝申し上げます。

中学生、高校生の応募した短歌の数には大変驚きましたが、五句三十一音の定型を用いてそれぞれの青春を詠んでいるとつくづく思いました。もちろん、舌足らずな短歌、投げやり気味の短歌もありましたが、一つ一つの作品は作った人のものなのです。作った人一人一人の現在が何かしら反映されていることは間違いありません。言葉を用いて表現することの楽しさを感じてもらえたらと思います。

投稿歌の選歌をするとき、私はいつもわくわくします。たくさんの歌の中から、私の心に響いてくる歌にきっと会えると信じているからです。今を生きる老若男女の声に耳を傾け、ああそうだなと思える歌に出会うことは本当に嬉しいことです。

私は、短歌を詠むことに行き詰まった時には、宮柊二先生の歌集を読むことにしています。宮先生の短歌を読むと、いつも励まされます。戦中、戦後の日本人がもっとも苦しい日々を過ごさざるをえなかった時代に、宮先生は、兵士として、労働者として、歌人として、本当に真摯に生きてこられました。そのすべてのエッセンスが短歌作品には詰まっています。だからこそ、私たちは、宮先生の短歌によって励まされ、勇気をいただくのです。宮先生の歌集は、岩波文庫の『宮柊二歌集』が手に入りやすいので、今回の投稿を機会にぜひ宮先生の歌を読んでみてください。そして、もっと宮先生のことを知りたくなったら、ぜひこの宮先生の故郷魚沼市の宮柊二記念館を訪れてみてください。

選　者　略　歴

久々湊 盈子（くくみなと えいこ）

一九四五(昭和20)年　上海生まれ　一歳の春、両親の故郷長崎に引揚げる。父親の仕事の関係で広島県三原市、愛知県に住む。二十歳の時に両親が亡くなり、長姉のいる東京へ。二十三歳で結婚。夫の父親（湊楊一郎）の俳誌「羊歯」（月刊）を編集・発行百号で終刊とする。短歌は十代から作っており、十七歳で「心の花」入会。十年のブランクの後、加藤克巳の「個性」に入会、終刊まで運営委員。「合歓」主宰。現代歌人協会会員、千葉県歌人クラブ会長。東京新聞「房総歌壇」選者。歌集に『熱き神話を』『黒鍵』『家族』『射干』『あらばしり』『紅雨』『風羅集』『鬼龍子』『世界黄昏』『麻裳よし』『非在の星』がある。ほかに鑑賞『安永蕗子の歌』百首。インタビュー集『歌の架橋』Ⅰ Ⅱ、共著『今こそ読みたい近代短歌』など。最新刊は『加藤克巳の百首』（ふらんす堂）。

鈴木 竹志（すずき たけし）

１９５０(昭和25)年愛知県刈谷市生まれ。
１９７３年より愛知県立高等学校国語科教諭、２０１１年退職。以後いくつかの大学で非常勤講師を勤める。
１９７３年コスモス短歌会入会。
現在、「コスモス」編集委員、選者。コスモス短歌会愛知支部代表。
現代歌人協会会員。日本文藝家協会会員。中部日本歌人会顧問。中京大学非常勤講師。
歌集に『流覧』『游渉』『聴雨』。評論集に『同時代歌人論』『歌を読む悦び』『孤独なる歌人たち』『高野公彦の歌世界』。

一般部門

応募歌数　一、〇七四首

選者賞（久々湊 盈子 選）

羽衣はたんすの奥にしまひ込み妻はそのままわが側にゐる

林　建生　（愛知県岡崎市）

選者賞（鈴木 竹志 選）

飛びとびで小屋番すれば飛びとびに花が移りぬ越後駒ケ岳に

磯部　剛　（新潟県魚沼市）

魚沼市長賞

鳥渡るダム湖豊かな弧を持つも離散の悲話を村史に残す

請関くにとし（埼玉県飯能市）

新潟日報社賞

わたくしは昭和原人キャッシュレスの進む時代を漂いており

添島貴美代（愛知県名古屋市）

宮柊二記念館長賞・・・七首

真夜の湯に真っ赤な林檎（りんご）を浮かばせて泣くだけ泣いた乳房切除　麻生みち子（京都府京都市）

しゃわしゃわと桑葉を食ぶるお蚕の冷たき背なが手に残りゐし　穂苅真泉（長野県安曇野市）

介護とは遠い者勝ち何もせずたまに帰れば歓待されて　園部　淳（愛媛県松山市）

祖父ちゃんが二階だと戻りしガキ大将二度目の津波に呑まれ帰らず　渡邉照夫（埼玉県鴻巣市）

古くても壊れていてもいいのなら俺も回収していってくれ　濱岡　学（京都府宇治市）

川の面（も）を水切り飛び跳ね沈みゆく小石でありし若き日われは　篠崎俊二（神奈川県厚木市）

真夏日の市場の外に立つポストは西瓜の絵手紙がぶりと食べる　岸下澄江（鳥取県鳥取市）

秀逸（一）・・・六首

うす青き空にふうはり昼の月楮の紙の切絵のやうに　宮澤民子（新潟県見附市）

歌人とは知らず杖つきひげづらの柊二先生の案内をしたり　土田　淑（新潟県糸魚川市）

足指に藁をはさみて縄を綯（な）ふ雪降る夜の父の鼻歌　佐藤　昇（愛知県尾張旭市）

チロチロと微かなゆばりの音流れ妻の命の調べと聞きぬ　弓田　博（千葉県流山市）

古時計に螺巻く如く気を入れて腰さすりつつじゃが芋植うる　山本美代（新潟県魚沼市）

数独と格闘しをる連れあひの肩には文鳥首折りて眠る　斎藤　斌（新潟県新潟市）

秀逸（二）・・・二十六首

進む道野球か将棋か悩む暇あれば宿題早くしなさい　樋口　勉（和歌山県海南市）

枯れ芦の中に横たふ釣舟は水の記憶を抱き朽（く）ちゆく　桑田美智代（熊本県八代市）

ひこうき雲いくすぢ走るファスナーが春ひらきゆくみちのくの空　畠山みな子（宮城県仙台市）

手書きなる文字はそれぞれ人のかほ癖ある顔に端正な顔　木立　徹（青森県八戸市）

元気なうちに会いましょうと亡き夫に同窓会の案内の来る　荘司幹子（埼玉県三郷市）

殺し合いやってる時かどうするの猛暑旱魃山火事洪水　北條忠政（東京都世田谷区）

無人駅降りて眺める故郷（ふるさと）は一八〇度変わらぬ景色　いとうみきお（新潟県新潟市）

牛小屋の画像認識ＡＩ機が個の発情を示して知らす　向井洋一（大阪府岸和田市）

夕暮れの改札口に娘を送り独りの日常つれて帰りく　藤島眞喜子（埼玉県春日部市）

亡夫（つま）の鍵につけいし小ぶりの金の鈴水無月の忌日をかすかに知らす　石川芳江（千葉県流山市）

「絆」とう糸偏の糸の切れしまま兄は逝きたり会うこともなく　寺岡徳雄（広島県庄原市）

庭隅の鉢動かせばその下にしどろもどろとなるダンゴムシ　白藤巳玲（埼玉県本庄市）

残雪を平に削りヘリを待つ春一番の山小屋の荷上げ　磯部　剛（新潟県魚沼市）

「息してる」妻は毎朝声かける脳梗塞後生きる糧かな　吉本雄二（東京都大島町）

三十年振（みそとせ）りの教へ子からの招待状密かに手にしわれ入院す　遠藤和暢（宮城県仙台市）

甥っ子はリュック背負ひてふる里へ嫂（あね）の遺骨を運び来たりぬ　南雲悦子（新潟県上越市）

引退の一升炊きの炊飯器このほど復帰す孫ら育ちて　大賀康男（愛媛県新居浜市）

アポ無しで古里の友訪ねれば笑顔で上げて茶菓子まで出す　いとうみきお（新潟県新潟市）

椎に盛る飯を見つむる目のかなし紙塑人形の有間皇子は　黒岡美江子（千葉県佐倉市）

アルバムの笑顔の吾を引き剥がすあの頃無理に笑ってたんだ　木下菊代（千葉県佐倉市）

「なんでやねん」不意にわき出る大阪弁　乳房のひとつが失せし夜半に　冨岡悦子（静岡県賀茂郡）

美容院は過ぎし介護の十余年われが心を保ちしところ　平澤恵美子（新潟県魚沼市）

母おらねば上野地下道に居たかもと朝ドラ観つつ夫つぶやく　石原洋子（埼玉県日高市）

「ぼこさま」と呼びし蚕に春蚕（はるご）あり秋蚕（あきご）もありて母は育てき　五十嵐トシエ（新潟県魚沼市）

色白も茶髪ものっぽも打ち揃い掛け声たかく山車を曳きゆく　梅沢佳子（静岡県藤枝市）

振り向いて「父さんごめん」とつぶやいて昭和の家の解体決める　佐藤一央（静岡県浜松市）

佳作・・・四十五首

ロシアでもウクライナでも徴兵の兵士は数で打刻されるのみ　高野　亨（埼玉県比企郡）

湯気の立つうどんに小葱ふりかけて彼の世の妻の呼ぶまで生きる　小畑定弘（徳島県阿南市）

あさもよし紀州の海に散骨とノートに書けば潮騒聞こゆ　樋口　勉（和歌山県海南市）

例えれば狸と狐の夫と我混じり混じらず四十年過ぐ　中根みち子（長野県諏訪郡）

ウクライナより避難して来し介護士が我の背中をやさしく洗ふ　中村重義（福岡県北九州市）

風向きの随（まにま）にゆれる白銀は朝日の中の茅の行進　長沼紀子（埼玉県川口市）

原色よりくすみカラーを選びたるヘ音記号のやうな人生　荒木朋子（愛知県知立市）

「戦争は女の顔をしていない」を全部読むにはがまんが要つた　五十嵐トシエ（新潟県魚沼市）

炭鉱の底いに人を埋め残し戦後復興は今日に至る　野上　卓（東京都世田谷区）

みずうみを心の奥に湛えたい尖る言葉を沈めるために　江尻恵子（岐阜県飛騨市）

話すほど露はになりゆく距離ありて君にとどかぬ言葉ただよふ　柴田文子（千葉県我孫子市）

山鳩の呼ぶに応ふる声のなし気儘なるつまいづこに遊ぶ　柴田文子（千葉県我孫子市）

桜舞う施設の庭に母と居てこどものときがもうすぐおわる　貝澤圭子（新潟県中魚沼郡）

前読んだ中身忘れてまた読んでやっと完読脳活の本　上田俊朗（石川県小松市）

女梅雨よせてたゆたふ峡の川利久ねずみの帯と流るる　川端千津子（千葉県四街道市）

とぎれなくあれやこれやのよみがへり渦巻蚊取線香くゆる　杉山春代（静岡県静岡市）

高齢の独居の父とドライブすリストラ無職になったと言えず　凜　七星（大阪府羽曳野市）

この風を解放感を夏雲を何にたとえん八海山頂　佐野庸子（新潟県長岡市）

隣家の屋根のカラスに視られつつ三百坪の防鳥網張る　小野眞智子（新潟県北蒲原郡）

おかえりとどこかで声がしたような無人の駅にしばし佇む　桑原ひろ子（新潟県魚沼市）

十キロの梅干し今年も漬け終えて恙無き日々傘寿のわれは　早川モトエ（新潟県見附市）

雪形の八海山を背景に補植する老い波紋ひろぐる　西山博幸（福岡県大牟田市）

つば広の帽子の上に日傘さし天罰のような炎暑を行けり　徳永多恵子（東京都品川区）

日帰りでも旅なんだからランチにはビール一本二人で分ける　樋口　勉（和歌山県海南市）

日に三度水遣りすれば格別の味とはなりぬ猛暑の秋葵（おくら）　角田正雄（宮城県仙台市）

姉ちゃんがアランドロンをまだ語る米寿真近かの目を輝かせ　赤澤皆春（大阪府羽曳野市）

眼鏡かけ読書の姿勢で居眠るを「考えぬ人」と妻の揶揄せり　鈴木鋭二（愛知県刈谷市）

大病に向き合い生きる友清し写経の紙は五千を越ゆと　小林香子（島根県出雲市）

ステントを六本埋めたる心臓がけなげに働き今朝も目覚むる　石川　功（千葉県野田市）

はじめての雪見の旅は日本海シェフ見習いの甥に会うため　黒沼春代（千葉県流山市）

土手道は学校帰りの秘密基地つばなの甘さは極上だった　長沼紀子（埼玉県川口市）

ポカポカと暖かい日はベランダで編み棒もってこくりこっくり　五木田洋子（ブラジルサンパウロ州）

媼らは移動販売車を囲む紙芝居待つ童の如く　飯田英範（新潟県新発田市）

手を振ればワイパーのごと振り返す赴任する子も淋しいらしい　稲山博司（東京都練馬区）

宅地化で消える沼地の蛙らは名残惜しむごと最後の合唱　風間勝治（愛知県知立市）

頓服の袋のうらの添書きに「おだいじに、、、」この点々が効く　斎藤　斌（新潟県新潟市）

宵の雨残してくれし水たまり朝の仕事の長靴洗う　小田明子（新潟県長岡市）

食べ物に金をかけるのが一番と叔母はよく言う九十七歳　長野惠子（東京都板橋区）

管理人のつもりで面倒みてしまうゴミステーションは家の真ん前

本多義夫　（新潟県魚沼市）

亡き父のネクタイ利用のパッチワーク母のやりかけ吾が引き継ぐ

杉江正子　（新潟県村上市）

畑打ちの一服の間の鍬の柄に憩ひてをりぬ番（つがひ）のとんぼ

大塚　明　（新潟県魚沼市）

麦わら帽いつのまにやらヘルメット畑帰りのママチャリのひと

柳瀬陽子　（新潟県魚沼市）

人と人間（あわい）に齟齬の沼ありて超えた頃には河童になるか

まち　（オーストラリアビクトリア州）

恋多き後期高齢生きてみん支持率低き政権横目に

山田文好　（静岡県浜松市）

帰り来れば二本の杖の二拍子がひびけり夫の無事なるあかし

五井修子　（香川県さぬき市）

ジュニア部門（小学生の部）

応募歌数　一、四八〇首

最優秀賞

目があうとにっこりわらう赤ちゃんはずっとまってたぼくの弟　高橋結良（魚沼市立広神東小学校）

選者賞（久々湊 盈子 選）

夏休みプールの水が冷たすぎぼくの口びるいつもむらさき　渡辺悠月（魚沼市立湯之谷小学校）

選者賞（鈴木 竹志 選）

ぼくじゅうのにおいいっぱいすいこんで「今日も集中！いい字を書くぞ」瀬下ゆいか（魚沼市立湯之谷小学校）

魚沼市長賞

夏休み、パパと虫とり、でかけたよ、ぼくよりひっしな、大きな子ども　櫻井潤紀

（魚沼市立湯之谷小学校）

新潟日報社賞

尾瀬の夜まっくらやみにみなはしゃぐひかるシカの目「ギギ」とりの声　酒井勇茉

（魚沼市立須原小学校）

宮柊二記念館長賞・・・九首

図書館は夢がいっぱい本の森表紙をめくって本の世界へ　谷澤愛恵（長岡市立阪之上小学校）

なすきゅうりかぼちゃにトマトしそすいかうちの畑はしんせん市場　星　快芯（魚沼市立湯之谷小学校）

まだ咲かぬ朝顔ながめじっと待つ遅咲きなんだきっとぼくもだ　星　時仁（魚沼市立湯之谷小学校）

つゆの時期田んぼ見ていたぼくとさぎじっと見つめるみどりのいねを　木皿光乃助（魚沼市立堀之内小学校）

入学しブカブカだったランドセルきつくなったよ卒業近い　佐藤尚悟（魚沼市立湯之谷小学校）

はらを決め反対おし切り丸ぼうず野球少年にぼくはなる　中澤　律（魚沼市立広神東小学校）

お日様のあついしせんが降りそそぐ私の顔はまっ赤なトマト　櫻井未来（魚沼市立湯之谷小学校）

夏の海でかくて長い流木にのってぷかぷかわたくしクラゲ　上村颯希（魚沼市立湯之谷小学校）

木の上でみつにむらがるかぶと虫よろいみたいなそうびをきて　吉川　椋（長岡市立福戸小学校）

秀逸・・・二十四首

ぼくがねてもあしたにならないたいようがねたからあしたになったよ　西多晃都
（鴻巣市立鴻巣中央小学校）

ぎおん祭たいこの音にちょうちんがおどって私の心もおどる　小宮山維織
（上越市立直江津南小学校）

ハシビロコウずっとこっちをにらんでるまるで何かを語るかのよう　臼井智広
（新潟大学附属新潟小学校）

やまばとが、ほうほうないた、夏休み一人で行くよ、ラジオ体そう　井口宗哉
（魚沼市立小出小学校）

ひげもじゃのとうもろこしの皮をむく中はキラキラ黄色いダイヤ　松田彩聖
（魚沼市立広神東小学校）

冬の外かわいい笑顔が増えてくるにっこり笑顔の雪だるまたち　八海みなみ
（魚沼市立伊米ヶ崎小学校）

ひまわりを三つうえたよ二つかれのこりは一つだおおきくなあれ　古田島遥馬
（魚沼市立堀之内小学校）

流れ星なかなか決まらぬ願い事決めたしゅんかん流れて消えた　小宮山一止
（上越市立直江津南小学校）

夏の尾瀬右も左も大自然ニッコウキスゲオゼイトトンボ　佐藤芽咲（魚沼市立須原小学校）

ぼくのゆめ消防士だよがんばるぞかなえるためにまいにちべんきょう　酒井翔矢（魚沼市立湯之谷小学校）

きょうだいで育てたきゅうりつるのびて黄色い花がたくさんさいた　小澤叶夢（魚沼市立堀之内小学校）

あの木にも虫のぬけがらついている夏の空へとたびにでたのか　櫻井冬也（魚沼市立広神東小学校）

ランドセルにもついっぱいおもたいなミントグリーンのすきないろ　和田瑛茉（魚沼市立湯之谷小学校）

夏の風ふうりんたちがさわいでるスイカをたべてタネふきとばせ　井口ひなた（魚沼市立小出小学校）

黙とうする人々を見て知ったのは悲しい歴史八月六日　小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

平泳ぎ手と足合わせ顔をだしタイムをちぢめ自分をこえる　片元滉喜（光市立島田小学校）

なみのおとかもめのなき声ふねのおともぐってみたらおとないせ界　海發　新（小千谷市立小千谷小学校）

あこがれの応えんリーダーがんばるぞハッピ　ハチマキ　チームのみんなと　安部心絆　（小千谷市立小千谷小学校）

ワタスゲとタケシマランの尾瀬の道私の白い恋人達ね　山田ののか　（魚沼市立須原小学校）

弟が毎日かわいいどうしようしょうがいじでもかんけいない　大羽賀香音　（魚沼市立広神東小学校）

夏の夜推しの配信十時から人生初のファンサゲット　伊藤うい　（魚沼市立小出小学校）

夜（よる）ごはんおばあちゃんの夏野菜（なつやさい）きゅうりにトマトやっぱりうまい　星野さくら　（魚沼市立湯之谷小学校）

ならいごと書道教室楽しいなはねるところはゆっくりと書く　井口栞里　（魚沼市立堀之内小学校）

お母さんと育てたわた花何日かたってできたよコットンボール　滝沢咲耶　（魚沼市立堀之内小学校）

佳作・・・三十六首

母の日にこっそり買ったカーネーション日ごろの感謝を母には内緒　藤本小萩（光市立島田小学校）

夏休み真っ赤なスイカにかぶりつくとてもあまくてほっぺとろける　新谷美永（光市立島田小学校）

おじいちゃんげんきになってうれしいなぼくのおまもりやくにたったよ　佐々木　新（長岡市立川崎小学校）

さいのかみ習字がうまくなるようにわたしのねがい天まであがれ　松田彩聖（魚沼市立広神東小学校）

なつやすみなつのていばんかがやくよ三尺玉だ長岡花火　阿部帆夏（小千谷市立小千谷小学校）

きれいだな大きな花火目がかがやくみんなむちゅうで花火を見てる　星野紗良（小千谷市立小千谷小学校）

夏の夜すず虫の声リンリンともうすぐ秋がくるよとつげる　平松　暖（小千谷市立小千谷小学校）

夏休み長岡花火きらきらと空いっぱいにかがやいていた　井上翔稀（長岡市立福戸小学校）

夏の空ジェットコースター乗りまくり帰路は夢でもジェットコースター　佐藤季依
（魚沼市立須原小学校）

はかまいりごせんぞ様をおむかえにみんな集合楽しいおぼん　星野真琴
（魚沼市立広神東小学校）

夏の部屋風がとおって風鈴がゆれて奏でるきれいな音色　和田心音
（魚沼市立広神東小学校）

いちがっきたのしかったよおぜがはらまたいきたいなちょうぞうごやに　星　杏璃
（魚沼市立小出小学校）

ぎおん祭キラキラおけしょう夜の町笛たいこの音もはしゃいでいる　小宮山維織
（上越市立直江津南小学校）

あつい夜クーラーつけてすずしくてタオルケットをだきしめてねた　野村梨香
（魚沼市立湯之谷小学校）

夕日（ゆうひ）がね海にしずむよ日本海心に残るきれいなけしき　樋口佳純
（魚沼市立湯之谷小学校）

シュノーケルつけておよいだ夏の海魚みつけていっしょにおよぐ　島﨑夏蓮
（魚沼市立湯之谷小学校）

パチパチと小さく音をならしてるせんこう花火の小さな命　小山沙桜
（小千谷市立南小学校）

陸上で大会に出るきんちょうだちょうきょり走る全速力で　横山陽葵
（魚沼市立堀之内小学校）

夏休みやひこ山にいき見る景色広々とした田んぼが見える　米山侑希（魚沼市立堀之内小学校）

昼休みに友達とやるカルタでは大声でさけぶ「それうちのやけぃ」　中西柚月（光市立島田小学校）

梅雨が来て新しい傘さしてみるはねる雨音はずむ足音　小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

あめんぼう青空のキャンバスに自由きままにもようをえがく　小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

教室からのぞくまぶしいプールにはカモメの親子並んで泳ぎ　小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

岩の上とかげが顔をあげている下を見おろし縄張り見張る　小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

あしたから小千谷まつりがはじまるよよこぶえふいてまんどうスタート　松井咲空（小千谷市立小千谷小学校）

ぼんの夜神社にひびく神楽の音ほうのうのまいゆうがな姿　大渕佳子（小千谷市立小千谷小学校）

１２０キロ何度も打って手がいたい夢中になったバッティングセンター　川又颯太（魚沼市立須原小学校）

夏の日にキラキラ光る水の中もぐる私はマーメイド気分　小川珠侑（魚沼市立広神東小学校）

しみわたり朝日まぶしい通学路ガリガリ鳴ってかき氷みたい　松田彩聖（魚沼市立広神東小学校）

山の雪とけて出てくる美味しい芽クマに注意かごにすず付け　滝沢心悠（魚沼市立広神東小学校）

はじめてのしろかきをみてたうえするこめがそだつのたのしみになる　大平颯真（魚沼市立小出小学校）

無人駅炎天下にも電車を見送る駅長ひまわりの花　小宮山維織（上越市立直江津南小学校）

ぼくの肩大きなみこし重く乗り負けずに力と声はりあげる　小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

落ちてるセミがんばって七日鳴いたかな鳥に見つかるなそっと土かける　小宮山一止（上越市立直江津南小学校）

つかみ取りやっとつかまえ塩ふられすみでやかれたおいしい命　丸山海琉（魚沼市立湯之谷小学校）

たんじょう日まどを開くと何かいる少し遠くにたぶんカモシカ　覚張夏芽（魚沼市立堀之内小学校）

ジュニア部門（中学生の部）

応募歌数　四、一八七首

選者賞（久々湊 盈子 選）

夕ご飯空いてる席は予約済み時々帰る姉貴のために

上野菜々（長岡市立大島中学校）

選者賞（鈴木 竹志 選）

水の色木々の変化はいつもちがうそれが私のふるさとの土手

関　優希（魚沼市立小出中学校）

魚沼市長賞

コンチェルト僕を掠(かす)める音の粒十九世紀のワルシャワの旅

小林斗和（慶應義塾普通部）

新潟日報社賞

友達は推しとかコスメに夢中だが私の頭ははてなでいっぱい

木村江里（新潟県立燕中等教育学校）

宮柊二記念館長賞・・・九首

夏休み課題を始めてはや二分やる気をなくした俺かたつむり　本間弥李（新潟県立燕中等教育学校）

吟味して一冊にしぼり司書さんへ「お願いします」本との出会い　髙橋優花（新潟県立燕中等教育学校）

ゆっくりとページをめくり、目を落とす、古き書物を愛でる晩秋。　松永ゆう（長岡市立岡南中学校）

十二年伸ばした髪をばっさりと自由に弾むこころと緑髪　堀越優花（中央大学附属横浜中学校）

夏の空朝は快晴夜は雨降り空はいつでも情緒不安定　星　莉子（魚沼市立湯之谷中学校）

マレットのおもみはきっと忘れないひと夏だけのパーカッションだ　大﨑琴葉（長岡市立秋葉中学校）

五時間目睡魔襲来負け戦抵抗してもまぶた落ち行く　磯部煌太（魚沼市立小出中学校）

庭にはる小さなプールすっぽんぽんではしゃぐ弟我が家の太陽　安藤　仁（慶應義塾普通部）

道端で黄色く陽気なカタバミの影でも目立つ優しい輝き　岩松玖真（中央大学附属横浜中学校）

秀逸・・・二十六首

夏祭りわたあめラムネりんごあめ屋台に並ぶ甘い誘惑　　迫　夏帆（中央大学附属横浜中学校）

大ばあば手押し車で歩いてる　よっとこよっとこ声掛けながら　　大渕七瀬（小千谷市立南中学校）

小節は始まったばかり今はまだやがて重なれ僕らの音色　　原田紗彩（中央大学附属横浜中学校）

週末もあっという間に日曜日時間のかけらがぽろぽろ落ちる　　新貝莉央（岩沼市立岩沼中学校）

部活中ひざのじんたい負傷した母の手ぬくく包帯きつく　　原　秀彪（新潟市立寄居中学校）

ヤシの木の長い影踏み帰る道ロス留学のサマーメモリー　　藤田隆矢（慶應義塾普通部）

眠(ねむ)れない夜(よる)に気(き)がつく冷蔵庫(れいぞうこ)いつも静(しず)かに歌(うた)っていたと　　小池春輝（慶應義塾普通部）

広い空遠くを見ても見えぬ夢一歩踏み出す勇気はあるか　　小泉瑠和（小千谷市立南中学校）

瓜を見て思い出される祖父の味千葉の畑は今もあるだろうか　西山　翔（慶應義塾普通部）

盆踊り幼馴染と再会す身長のびても中身は同じ　三橋永暉（慶應義塾普通部）

青空に鮮やかな色サルスベリ猛暑の夏に天高く咲く　新谷亮太（慶應義塾普通部）

夏の夜たたずむぼくと天の川どうでもよくなる悩みごとなど　髙橋蒼来（魚沼市立小出中学校）

お気に入りの白いハンカチ持って行く海辺を飛んだカモメが盗った　髙橋結衣（岩沼市立岩沼中学校）

刻々と刻まれていくひとときは二度と戻らぬわたしのかけら　柿崎悠介（岩沼市立岩沼中学校）

海に行き浜辺で光る貝がらを土産に一つ拾って帰る　鹿島永季（新潟県立燕中等教育学校）

合宿で疲れた夜に顔上げた空には夏の大三角　久保田夏葵（中央大学附属横浜中学校）

書き終えた喜び束の間筆を換え震えおさえて名前を入れる　奥川雄太郎（慶應義塾普通部）

言葉にはいつも魔法がかかってる時に苦くてきれいなものが　富所葉音　（魚沼市立小出中学校）

チャリ乗って田んぼを回るおじいちゃん田園警備おつかれ様です　井口璃乃　（魚沼市立小出中学校）

十一時アプリを開き待機する昔と違うラジオの聴き方　手塚朱梨　（塩尻市立広陵中学校）

レシートをすばやくとって店を出る買った小説心踊らせ　井上　采　（新潟県立燕中等教育学校）

はじめてのサップに乗って波の上イルカのようにすいすい進む　丸山しずく　（小千谷市立南中学校）

ああ今日か。「さよなら」なんて言ってみる書きこみだらけの楽譜見つめて　難波聡美　（私立創価中学校）

個人練パート練からセクション練ついに合奏力を注ぐ　秋村麻莉　（中央大学附属横浜中学校）

フルーツにひまわりの種大きなくるみなんでも入るよぼくはハムスター　瀬戸口彩加　（中央大学附属横浜中学校）

美容室「天気がいいね」「そうですね」あ、やばいこれ会話ネタ切れ　阿部珠希　（長岡市立大島中学校）

佳作・・・四十首

腕見ると日焼けという名のTシャツがいつまでたっても脱げないままで　高橋李緒（南魚沼市立六日町中学校）

席替えは人生変えるデスゲーム前か後か世界が変わる　西山結志（南魚沼市立六日町中学校）

凜乎（りんこ）たる音色広がり憧れる隣で弾いてる父のお手本　福井直路（慶應義塾普通部）

ラフティングひっくり返るゴムボートみんなで落ちて大笑いする　宮嶋晴樹（慶應義塾普通部）

テニス漬け勝ち点競って過ぎた夏靴下あとは努力のあかし　杉﨑永季（慶應義塾普通部）

暑い夜長岡の空見あげると平和を願う花さいていた　八木美莉彩（長岡市立東北中学校）

瓶ラムネビー玉押せばあふれ出るこの泡の中に入れればいいな　十見珠江（魚沼市立小出中学校）

海の音ヤドカリ歩く砂浜で一人寝転ぶ夏休み　森山富卯（魚沼市立小出中学校）

バス降りて道路で出会った野良猫と手を振りながら夜のあいさつ　渡辺麗奈
（魚沼市立魚沼北中学校）

もう限界いやまだやれるやるしかないゴールで待ってるあなたのために　伊藤　遼
（長岡市立岡南中学校）

欠けている心のひびを直せなきゃ崩れていくよガラスのように　平間翔太
（岩沼市立岩沼中学校）

すすき揺れ十五夜の月をながめてるあの兎からも見えているかな　武内桜緒
（新潟県立燕中等教育学校）

誕生日初めて彼からメッセージたった一言大事な宝　小日向　葵
（新潟県立燕中等教育学校）

つばめの子飛び立つ準備長旅へ帰って来いよまた来年も　渡邉快都
（魚沼市立堀之内中学校）

甘すぎるけれどさっぱりそしてでかいタネがいっぱいスイカがうまい　細川結都
（新潟市立亀田中学校）

夏休み通い続けた音楽室想いをこめてステージに立つ　山田心菜
（新潟市立亀田中学校）

盆休みおばあちゃんちへ墓参り死んだじいちゃん元気してるかな　石村康晟
（新潟市立亀田中学校）

盆踊り昔の友と笑顔咲く河内音頭に胸が高鳴る　名倉百香
（中央大学附属横浜中学校）

日焼けせずそこだけ白い足の肌夏がのこした靴下のあと　樋口眞子
（中央大学附属横浜中学校）

夏休み花火とともに終わってくまだ落ちないで線香花火　三橋知果（中央大学附属横浜中学校）

学校の百葉箱の裏側に小さな命ヒナの鳴き声　佐藤大珠（小千谷市立南中学校）

ボールペンシャープペンシル万年筆文具の沼に溺れる私　岩佐颯太（小千谷市立南中学校）

夜空にて光の筋と笛の音ドンと開けば皆がほほえむ　山口　奏（南魚沼市立六日町中学校）

ほおずきの優しい笑顔祖母の声忘れられない夏の思い出　澁谷孝介（慶應義塾普通部）

来ないでと親に言ってから家を出る今日はセカンドスタメン起用　増田健ノ進（慶應義塾普通部）

勝負の日きつく結んだ面紐で気持ち入れ替え勝負の時だ　岡部愛生（魚沼市立小出中学校）

筆箱にあると分かっているのにねなぜか買っちゃう文房具たち　矢尾板優菜（長岡市立岡南中学校）

読書中周りの音はシャットダウンこの時だけは私の世界　齋藤心春（新潟県立燕中等教育学校）

夏休み母と作ったとんぼ玉思い出とともにかばんへつける　須田朋美（魚沼市立堀之内中学校）

先生に挑んで負けるくり返し真夏のあつい柔道場で　前田みちる（新潟市立亀田中学校）

鷹の目は全て見通す鋭い目孤独を守り今飛びたつの　山谷奏愛（新潟市立亀田中学校）

いもむしが必死に食べるユズの葉はきれいにはしからなくなっていく　樋口眞子（中央大学附属横浜中学校）

夏合宿みんなで行ったラーメン屋今年はしょうゆ来年はみそ　五十嵐唯七（中央大学附属横浜中学校）

親友と行くディズニーでびしょ濡れにきずなを示すお揃いのみみ　阿部桃華（中央大学附属横浜中学校）

日焼け止めぬってもぬっても流れ落ちみんな真っ黒テニス部の夏　荻野真凪（中央大学附属横浜中学校）

パタパタと下敷きが鳴る教室で悪びれもせず休むエアコン　藤野未來（中央大学附属横浜中学校）

京都駅いろんな言葉が飛び交って私が異国に来たみたいだな　安井琴和（中央大学附属横浜中学校）

一本道周りは田んぼ後ろには入道雲で覆われた空　川村美緒（中央大学附属横浜中学校）

真夏の中友達と行く幸せな日推しと過せた最高夏休み　石塚陽世里（中央大学附属横浜中学校）

水槽で海月（くらげ）が優雅に泳いでる長い触手（しょくしゅ）を大きく揺らして　出口優花（中央大学附属横浜中学校）

ジュニア部門（高校生の部）

応募歌数　三、六六九首

最優秀賞

天使みたいばあばはいうけどほんとはねばあばの前だけ天使になるんだ　須藤菜々花（神奈川県立湘南台高等学校）

選者賞（久々湊 盈子 選）

初夏の朝ペパーミントの風通るテニス部員の半そでの白　鈴木悠真（長岡工業高等専門学校）

選者賞（鈴木 竹志 選）

覚悟決め的前に立ち息を吐くプレッシャーさえ矢に乗せて射つ　池知夕季絵（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

魚沼市長賞

真夜中の流星群に魅入られて色どられてく記憶の記録

星野ひゆう　（新潟県立小出高等学校）

新潟日報社賞

順位死守定期試験の様相はノルマンディーのドイツ軍なり

本間　蓮　（長岡工業高等専門学校）

宮柊二記念館長賞・・・九首

夕焼けに染まるトラック駆ける影上へと続く道を信じて　山川航平（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

アメリカの歴史が動く可能性打ち破れるかガラスの天井　新明友優（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

旧友と昔に戻る一日は工夫次第でおうち縁日　桒原朱里（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

御食国食材豊富な淡路島祖父母と楽しむ夕食の膳　荒井梨桜（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

臆病な自分を鼓舞して滝壺へ過去の自分に別れの合図　駒形優和（新潟県立小出高等学校）

英和辞典母からもらったページには母の青春書き込みがある　須田啓介（東京学館新潟高等学校）

ばあちゃんに話しかけてるじいちゃんの愛は変わらぬガラス越しでも　柳川真穂（神奈川県立湘南台高等学校）

鴇（とき）色に暮れてゆく空懐かしいあの秋の空にまた出会えたら　浅海亜優（神奈川県立座間総合高等学校）

イヤホンを二人で分けた好きな曲今でも君との始まりの歌　丸山美利愛（新潟県立十日町総合高等学校）

秀逸・・・二十五首

異常気象戦争内戦巨大地震地球温暖化呼吸困難だ　小林　陸（長岡工業高等専門学校）

ばあちゃんが裁縫道具準備したいやいやそれはダメージジーンズ　富桝璃桜（新潟県立十日町総合高等学校）

家の裏に誰も知らない絶景あり田んぼの水に映る夕焼け　小泉雲花（新潟県立小出高等学校）

こむぎと呼ぶ猫の視線の高さから夏の終りの街を見ている　堀　萌花（東京学館新潟高等学校）

「あお」と呼ぶ私の犬は6時起き私と同じ時生きている　片岡紗弥（東京学館新潟高等学校）

きつくても選手からのありがとうこの一言がマネのやりがい　曽我優花（新潟県立小出高等学校）

「めんどくさ」「話しかけるな」「こっちくんな」反抗期中言っていた言葉　服部修茉（新潟県立小出高等学校）

シングルスマッチポイント迎えたら「自分はできる」と三度呟く　三原煌大（東京学館新潟高等学校）

花火の音（ね）しゃぎりの声が交錯し織りなすドラマ片貝まつり　佐藤愛優奈（新潟県立小出高等学校）

線香で空と繋がる墓参り祖父への思い煙に乗せて　佐藤綾美（新潟県立小出高等学校）

テスト後の友とカラオケ最高だプリクラ、スタバこれぞＪＫ　星　果実（新潟県立小出高等学校）

ついに来た今年はいよいよ受験生もう逃げられない真っ向勝負だ　立花芽衣（神奈川県立湘南台高等学校）

ふと見れば青のクレヨンちびていた絵日記の中閉じこめた夏　中本百香（神奈川県立湘南台高等学校）

採点時水兵リーベぼくの船端に書かれた答案用紙　濱松咲也（長岡工業高等専門学校）

戻らない埋め立てた川消えた蛍あの夏の日は記憶の中　石田悠華（長岡工業高等専門学校）

夏合宿ホルンを奏でる湖畔にて広がる水の輪音の粒立ち　由川かのん（東京都立駒場高等学校）

ワイパーの取りこぼしたる雨粒の中に溶けゆく信号の赤　今村一稀（神奈川県立鎌倉高等学校）

おはようと返さぬ君は動かない光を浴びて育つアベリア　山本太理（新潟県立小出高等学校）

たのしみは袴身につけ筆握り本番夢見て黒くなる時　横原唯依（神奈川県立湘南台高等学校）

親友と二人で歩く帰り道ふとしたときに声が重なる　小島初音（神奈川県立座間総合高等学校）

帰路に就く小さな揺れが心地よい部活終わりの江ノ電の中　髙野　樹（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

地区予選三日後に控え松葉杖バットの替わりに振り回そうかな　林　大智（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

夏の夜真っ暗な空に花が咲くすぐに枯れてはつぼみが開き　村上愛依（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

窓を開け僕しかいない教室に白南風が吹く快晴の空　佐々木禅二（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

夏合宿帰りのバスで咲き誇るりんごジュースとすっぱい匂い　三嶋大貴（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

佳作・・・三十八首

振り抜いた手元に残るいい感じナイスショットのかけ声ひびく　櫻井優翔（新潟県立小出高等学校）

朝起きた服を着替えて朝ごはんおいしいお米ふるさとの味　米山　凛（新潟県立小出高等学校）

夜の森木の香に集うカブトムシ闇に輝く夏の宝石　渡邉美月（新潟県立小出高等学校）

魚沼の稲に陽光降り注ぎ輝き放つ金色（こんじき）の海　金井優希奈（新潟県立小出高等学校）

夏の川光を反射し輝いて友とみんなでそこへとびこむ　野上虎太郎（新潟県立小出高等学校）

夏祭りみんなかわいく見えてくるこれがまさしく祭りマジック　駒形涼太郎（新潟県立小出高等学校）

夏休み休むことなくバット振る最後の夏に勝利するため　豊野暖士（新潟県立小出高等学校）

始業ベル５ｔ（トン）のまぶた持ち上げる視界のゆれる陽だまりの午後　目黒ベイヤ花子（新潟県立小出高等学校）

車窓から見える桜も三回目四季を感じた通学列車

種村こはる（新潟県立小出高等学校）

今までの努力がみのるハードルのゴール付近に顧問の笑顔

林　心紅（新潟県立小出高等学校）

キラキラと滴る雫涼しげに朝露をまとう夏のツユクサ

岡村芽依（新潟県立小出高等学校）

雪溶けて春の訪れ桜色靴に花びらはじめの一歩

大塚智輝（新潟県立小出高等学校）

帰り道バイクで風を切りながら春を感じる菜の花畑

小幡耶真斗（新潟県立小出高等学校）

夏合宿灼熱の中汗流すこの肌の色は努力の証

西居美波（神奈川県立湘南台高等学校）

本なんか普段読まない僕だけど君に会うため図書室に行く

雲野健太（神奈川県立湘南台高等学校）

窓の外絶えずやまない蝉の声夏限定の朝の目覚まし

平野萌々夏（神奈川県立湘南台高等学校）

図面引く手に宿るのは技術の魂日々の努力が未来を創る

石澤悠真（長岡工業高等専門学校）

三連符錆びたギターの弦で弾く震える指は恋を知ってる

五十嵐紅菜（東京学館新潟高等学校）

雨の日は大きな傘で雨音の奏でるメロディー一人聴いてる　波多野浩仁（東京学館新潟高等学校）

目をつぶりスタート地点に立ったとき見えてくるのはトップの私　林　心紅（新潟県立小出高等学校）

過ぎてゆく小さな日々の裏側にどこか感じる青春の果て　吉原弦生（新潟県立小出高等学校）

初ライブキラキラ空間夢みたい二時間半で体感二秒　宮﨑愛花（神奈川県立湘南台高等学校）

山のような心をもちたいが実際の自分はただのわた雲　福原一花（長岡工業高等専門学校）

既読つきブルーライトを見つめてる返信待ちの午前二時半　高橋乃彩（新潟県立十日町総合高等学校）

半月の型にじゃがいも切る母の食卓秋は静かに始まる　丸山かこ（東京学館新潟高等学校）

祖母ちゃんにもらったスイカは夏の味三日月みたいに母さんは切る　若月悠希（東京学館新潟高等学校）

三十分自転車通学する時間僕はペダルと会話している　武藤来斗（東京学館新潟高等学校）

金賞と銀賞の差は何だろうトロンボーンが僕に問う夜　木下恵斗（東京学館新潟高等学校）

的前に初めて立った夏合宿遠くに蝉の音響け弦音

高橋佳歩（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

夏祭り半年ぶりの友と一緒に気力を絞り神輿を担ぐ

山枡太一（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

鳴り響く子供の声とセミの声今日も平和で元気な公園

柳瀬　爽（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

江ノ電の混雑ぶりで本日もインバウンドを肌で感じる

髙野　新（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

絶対に入らないと決めたバレー部気づけば僕はバレーのとりこ

古柴寛大（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

国越えて膝も伸ばせず7時間体に染みる菴羅の果肉

毛藤菜乃香（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

缶バッジつけて意気込む公演前色彩豊かなサイリウムの海

古川葉月（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

5分間駐車場から離れたら自動作成自動車サウナ

工藤美和（神奈川県立七里ガ浜高等学校）

県総体思いを繋ぐバトンパス夢中で走り記録更新

大村爽介（岡山県立西大寺高等学校）

雨上がり濡れてる道路水たまり履き慣れた靴で飛びこえる朝

山口瑞月（岡山県立西大寺高等学校）

第三十回宮柊二記念館全国短歌大会学校賞授賞校

小学校	新潟県	魚沼市立湯之谷小学校
中学校	新潟県	新潟県立燕中等教育学校
	神奈川県	中央大学附属横浜中学校
高等学校	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校

学校賞

学校（学年）全体で取り組み、多数の応募をして、優秀な成績を収めた学校に授与する賞です。

編集後記

堀之内町町制施行七十周年を記念して初めて開催された宮柊二記念館全国短歌大会は、魚沼市市制施行二十周年の今年三十回を迎えました。

今回は、選者に歌人として活躍されている久々湊盈子先生、鈴木竹志先生をお迎えし開催することができました。応募作品数は、一般部門で千七十四首、ジュニア（小学生、中学生、高校生）部門では、九千三百三十六首となりました。

ご多用のなか、しかも応募作品がたいへん多いにもかかわらず、両選者先生からは一首一首について心のこもった選をいただくとともに、感銘深い「選者のことば」を添えていただきました。ありがとうございました。

一般部門に秀作を応募くださった皆様、ジュニア部門にみずみずしさと躍動感あふれるすばらしい歌を応募いただいた児童、生徒の皆さん並びにご指導いただいた各学校の先生方に心から感謝申し上げます。

来年の第三十一回大会にも、引き続き多数の皆様から応募いただきますようお願い申し上げます。

（宮柊二記念館 館長　下村正人）

令和六年十一月十六日

主催　魚沼市
魚沼市教育委員会

主管　宮柊二記念館

後援　新潟県
新潟県教育委員会
新潟市教育委員会
魚沼市文化協会
新潟日報社
朝日新聞新潟総局
毎日新聞新潟支局
読売新聞新潟支局
越南タイムズ
小出郷新聞社
NHK新潟放送局
BSN新潟放送
NST新潟綜合テレビ
TeNYテレビ新潟
UX新潟テレビ21

協賛　コスモス短歌会

発行　令和6年11月16日

宮柊二記念館

〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6
TEL・FAX：025-794-3800
Mail：miya-museum@city.uonuma.lg.jp
HP：https://www.city.uonuma.lg.jp/site/miyashuji/